



TITLE:

献辞

AUTHOR(S):

本山, 美彦

CITATION:

本山, 美彦. 献辞. 経済論叢 2001, 167(3)

ISSUE DATE:

2001-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/45400>

RIGHT:

經濟論叢

第167巻 第3号

渡邊 尚教授記念號

献 辞	本 山 美 彦	
大戦間期ドイツ電機工業における 流れ作業の導入と展開	今 久 保 幸 生	1
両大戦間期ドイツにおける 工作機械工業の地域構造	幸 田 亮	23
救貧法から相互扶助へ	廣 重 準 四 郎	43
日本の工作機械メーカーにおける 製品開発システム	小 竹 正 八	99
北タイにおける在来織物業の発展と その生産形態について	上 田 曜 子	89
中小企業の変質とその競争力	蘇 顯 揚	108
スコットランドの綿工業の発展過程	林 妙 音	130
貧困削減政策の実効性に関する一考察	大 平 剛	146

渡邊 尚 教授 略歴・著作目録

平成13年 3 月

京都大學經濟學會

献 辞

渡邊尚教授は、平成12年5月30日に63歳の誕生日を迎えられ、平成13年3月31日をもって本学を退官されることになりました。

渡邊教授は、昭和37年3月に東京大学経済学部を卒業され、同大学院経済学研究科に進学、そして同大学院を単位取得退学される間に、3ヶ年ケルン大学に留学されております。昭和46年に北海道大学経済学部に着任され、昭和50年4月に本学経済学部助教授に転任、昭和61年7月に教授に昇任され、この度の御退官までに26年にわたって本学の教育・研究に尽力してこられました。またこの間、ミュンスター大学での非常勤講師のほか、ボン大学、ミュンヘン大学、ベルリン自由大学にて客員教授を務められ、デュースブルク大学との共同研究を進められるなど、ドイツの諸大学における研究・教育にも寄与されております。

渡邊教授は、歴史と政策と理論とにわたるその深い学殖により「大塚史学」等の立論の前提である「国民経済」視点を徹底的に批判しつつ、地域に視点を定めた独自の「原経済圏」・「本来の経済地域」論を構成されました。この論理は、昭和62年の学位論文、『ラインの産業革命』から、平成12年刊行の編著『ヨーロッパの発見』におけるEU内外国境地域間協力の枠組みであるエウレギオ論に至るまで、ゆらぎなく貫徹しているのみならず、逆説的ながら、時とともに強靱性と柔軟性とを兼ね備えるようになってきております。この論理によって骨格を与えられた渡邊教授のヨーロッパ経済論は、我が国最高水準のものと評価して誤りないものです。またこの論理は、渡邊教授の師、松田智雄教授の提示された資本類型論の批判的継承にも裏付けられた独特の経済政策論を媒介にして、地球規模の経済構造・動態の説明概念にまで高められております。渡邊教授は、これらの論理や概念枠組みにより独自の地域の経済史の学をうち立てられ、多くの後継者を育成されました。

渡邊教授は、学外においては、平成11年5月に本学で開催された第68回社会経済史学会全国大会の主催者を務められるとともに、同大会共通論題報告の間

題提起をなさり、また、大正7年に後藤新平、新渡戸稲造らによって発足して以来の伝統をもつ軽井沢夏期大学の講師を平成4年以降務められるとともに、平成7年からはその企画顧問をも務められております。さらに、昭和41年に有澤廣巳、大河内一男、カール・ハックス、ウィリイ・クラウスの諸教授等によって設立されて以来、30有余年の伝統をもつ日独経済学・社会科学会議においては、それまでの報告・寄稿実績に基づき、平成8年の東京大会以降、日本側代表としてこの国際学会を指導してこられました。以上は、渡邊教授の内外の諸分野における学界活動のほんの一端にすぎず、学界でのその様々なご活躍ぶりにはまことに瞠目に値するものがあります。

渡邊教授は、学内においては、平成3年度から5年度まで京都大学評議員を務められ、平成10年度には京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長の重責を担われ、同年度の経済学研究科とソウル大学校経営大学・ソウル大学経済学部との共同学術セミナーにおいて本研究科代表としての挨拶と報告を行われております。さらに、平成11年度から平成12年度まで経済学部学科長を務められるとともに、平成8年度から平成12年度まで京都大学同和・人権問題委員会委員長を務められるなど、本学の発展のために多大な貢献をされました。

京都大学経済学会は、渡邊教授の多年にわたるご功労に感謝と敬意の気持ちを込めて本記念号を編集いたしました。渡邊教授の御薫陶を受けられて各分野で活躍なさっている方々の論文を編んで、これを渡邊教授にお贈りできますことは、私どものなよりの慶びであります。

渡邊教授が、本学を去られた後も、それまでと変わらずたゆまぬ御研鑽を積まれてゆくであろうことはよく予想されるところです。どうか、ご健康にめぐれどもご留意の上、今後も学界ならびに社会のためにますますご活躍くださいますよう、心から期待し、また祈念いたします。

平成13年3月1日

京都大学大学院経済学研究科長・経済学部長 本 山 美 彦